



# 学指通信

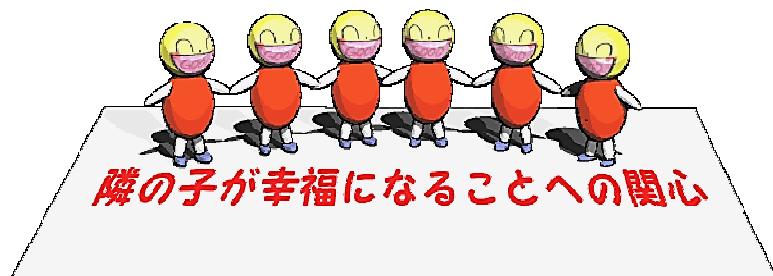
## 第一回 若手研修会

# 今日お話しいただいたことを 何十年もかけて自分でみつけてきた

何年も前、若い頃であればつながらなかったかもしれないが  
こんな研修があったらよかったと思う

これは、研修会に同席されていた校長先生の言葉です。

生徒の答えを先生が「復唱」する・・・これは or × ? クラスレクのプランニング、どこまで先生がしたらいいの? 等、日々の具体的なことを取り上げながら、教育のコアの部分 (= 原点: だれでもよくなりたい、役に立ちたい 目的: その願いでつながる人間関係を内から育てる) を学びました。さらに、「なんのために?」を考えて指導にあたらないと、大きな落とし穴にはまることにも気づかされました。日々のなにげない生徒とのやり取りの中で、知らず知らずのうちに生徒がつながろうとする力をつぶしてしまうことがある、ということです。「隣の子が幸福になることへの関心」これが今回のキーワードでした。本校では66期生を中心に「本気の声かけ」が合言葉になってきていますが、「本気」が本当の意味での「本気」にかわるヒントがこの言葉キーワードにありそうです。



## 参加された先生方の感想より

- 「隣の子の幸福に関心を持つ」 - 子供たちの関わりの中からそのような気持ち、自覚を呼び覚ましたい。(島先生)
- 「何のために」という本質の部分を再確認でき、これからも一度立ち止まって考えないと、と思った。(財津先生)
- ゴール、目標にこだわり一年をスタートさせたつもりだったが、「何のために？」と振り返った時、まだまだだと考えさせられた。(曾我先生)
- 「役に立ちたい」や「隣の子への関心」といった子どもの気持ちを大切に、「横のつながり」を活かした授業展開をできるようにしたい。(加藤先生)
- 学級経営に関しては自分の実践の裏付けとなり、学級目標の「絞り込み」もすでに行っているところだった。授業においても「役に立ちたい」という生徒を増やし、つながりを強めていきたい。(吉岡先生)
- 自立力とは 自律力(自分で律する)、 共同力(助け合い)。私のクラスの課題は「自律力」なので、今回の研修内容を踏まえて、考えを深め行動していきたい。(仲村先生)
- 子どもたちにつけたい力やなってほしい姿をしっかりと持ち、それを軸として、大事なこと、本当にやるべきことを絞り込んでいきたいと思った。(菅野先生)

学級経営計画を目にした時も感じましたが、今日の発表でも、担任の第一声がしっかりと考えられていることに感心をしました。日々様子からも物事を何のためにやっているのかという部分が忙しさのあまり飛んでしまい、とにかくやらねばならないことで動いている先生方を見ますので、もう一度原点に帰って、何のためにやるのかを考えられるような職場環境をつくっていきたく感じました。

教頭先生